

8. 京都華頂大学・華頂短期大学

テーマ	学びのユニバーサルデザインをめざして ～ストレス評価に基づく環境改善の取り組み～	
発表代表者	根岸 裕子：京都華頂大学・華頂短期大学 教育開発センター（食物栄養学科）教授	
連名発表者	上田 有里奈：京都華頂大学・華頂短期大学 教育開発センター（生活情報学科）准教授 柴田 精一：京都華頂大学・華頂短期大学 教育開発センター（幼児教育学科）講師 高岡 理恵：京都華頂大学・華頂短期大学 教育開発センター（幼児教育学科・介護専攻科）教授	
キーワード	学びのユニバーサルデザイン	学生の多様化
	精神的健康	非言語的関与
発表の概要	<p>学生の精神的健康度を可視化し、大学におけるユニバーサルデザインの改善に活かすことを目的に、大学および短期大学の学生を対象に Kessler 心理的ストレス尺度（K10）を用いた調査を実施した。K10 スコアに基づき空間利用や支援制度の認知、相談環境を比較した結果、「一人で静かに過ごせる空間」や「交流と快適性の調和」を重視する傾向がストレスの高い学生に多くみられた。また、静穏な学習空間の確保、制度的支援の認知、情報アクセスのしやすさや教材提示のわかりやすさなど、複数の要素が精神的健康度と関係していることが示唆された。学生の多様化が進む中、モバイル端末での情報設計、オフィスアワーの周知、教職員の非言語的な関与、AI チャットボットの活用などが、より安心して学べる環境づくりに寄与する可能性がある。こうした視点は、支援の到達性と大学の質保証を高める一助となることが期待される。</p>	